

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科／子ども教育学科／国際教養学科		
科目名称	歴史と現代					授業形態	講義		
科目コード	120220	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員	○	アクティブラーニング	
担当教員名	新名 一仁							ICT活用	
授業概要	<p>「歴史を学ぶ」ということを、単に歴史書から知識を学ぶもの、あるいは年代を暗記するものであるかのような理解をしている人が多い。</p> <p>世の中には「日本史好き」「歴史好き」と呼ばれる人々が多く存在し、歴史書・歴史小説やテレビ番組、あるいはWebサイト等から様々な知識を得ることが出来る。また、高校受験・大学受験科目としての「歴史」を学び、年代や歴史用語を暗記した人も多いただろう。しかし、こうした歴史的知識・教養を知ること、あるいは受験対策としての「歴史」と、学問としての歴史学とは全く別物である。</p> <p>本講義では、現代の教科書で語られる歴史、あるいは通俗的な歴史認識が、どのような研究に基づいて形成、変遷していったかを、おもに日本の近世から近現代を対象として解説していく。それにより現代の歴史認識が、どのように形作られ、変遷していったかを学ぶ。</p>								
関連する科目	歴史と社会								
授業の進め方と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、プリントとプロジェクターを使って、講義をおこなう。</li> <li>・冒頭、前回の講義についての疑問・質問について回答・解説する。</li> <li>・中学・高校の教科書を受講生に音読してもらい、その内容を解説する。</li> <li>・時代ごとの教科書記述の変化を解説し、どのような研究をもとに教科書の内容が変化していったかを解説する。</li> <li>・最後に、講義についてのレポートを課し、次回講義についての質問に回答してもらう。</li> </ul>								
授業計画【第1回】	<p>第1回 ガイダンス、歴史教科書と歴史認識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を学ぶことが、現代においてどのように役立つのか解説</li> <li>・学習指導要領と教科書の関係を解説し、時代ごとに学校でならう「歴史」が変化することを解説</li> <li>・教科書がどのように作られ、出版社によって内容が異なることを解説</li> <li>・上記をふまえ、中学・高校で学ぶ歴史がどのような研究に基づいているのか、概説する。</li> <li>・あわせて、研究上の時代区分についても解説</li> </ul>								
授業計画【第2回】	太閤検地と刀狩の意義								
授業計画【第3回】	「鎖国」の教科書記述と研究の現状 その①								
授業計画【第4回】	第3回 「鎖国」の教科書記述と研究の現状 その②								
授業計画【第5回】	近世の百姓と一揆 その①								
授業計画【第6回】	近世の百姓と一揆 その②								
授業計画【第7回】	開国から倒幕・明治維新 その①								
授業計画【第8回】	開国から倒幕・明治維新 その②								
授業計画【第9回】	開国から倒幕・明治維新 その③								
授業計画【第10回】	開国から倒幕・明治維新 その④								
授業計画【第11回】	明治政府の領土確定と外交								

授業計画 【第12回】	大日本帝国憲法の制定
授業計画 【第13回】	日清戦争と日露戦争
授業計画 【第14回】	日韓併合と日中関係
授業計画 【第15回】	満州事変から第二次世界大戦、太平洋戦争
授業の到達目標	1) 中学・高校教科書の内容の時代ごとの変化から、歴史認識の変遷と進化を理解する。 2) 中学・高校教科書の内容と、学界における研究成果との違いを理解し、歴史認識の形成について理解する。 3) 近世から近現代の歴史の流れを学び、歴史が現代と地続きであることを理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	毎回講義の最後に次回で対象とする時代・内容を伝えるので、中学・高校時代の教科書を読んでおくか、図書館で概説書に目を通しておく(30分)。
授業時間外学習【復習】	前半終了後、配布資料や講義中のメモを読み返し、理解度を深める(30分)。
課題に対する フィードバック	講義最後におこなうミニレポートに応える形で、理解できなかった部分、疑問点に答えていく。
評価方法・基準	下記のふたつで評価する。 1) 講義ごとのミニレポート 50% 2) 期末試験(持ち込み可) 50% ※また、適宜学外の博物館展示などの見学レポートを課す(任意)。
テキスト	プリント配布
参考書	・ 中学教科書(社会)、高校教科書(日本史) ・ 山本博文ほか『こんなに変わった歴史教科書』(新潮文庫) ・ 安田清人『「旧説vs. 親切」幕末維新43人』(Mdn新書) ・ 町田明広『攘夷の幕末史』(講談社現代新書) ・ 小林和幸編『明治史講義【テーマ篇】』(ちくま新書) ・ 筒井清忠編『昭和史講義: 最新研究で見る戦争への道』(ちくま新書)
備考	